

名古屋教区・北陸ブロック

平和祈願ミカ

主司式：ミカエル松浦悟郎司教

共同司式：北陸ブロック司祭団

2018 年

8 月 11 日 (土・祝)

カトリック金沢教会 於

主催：名古屋教区北陸ブロック 宣教司牧評議会

“平和の問題に常に関心を”

昨年暮れにフランシスコ教皇様は、「焼き場に立つ少年」の写真に目をとめられ、「戦争がもたらすもの」と表題をつけて署名し、広く頒布するよう指示されました。この写真は、長崎の原爆投下1カ月後に米国従軍カメラマンが撮影したもので、戦争がもたらす不幸、悲しみ、虚しさ、憤りを表しています。戦争は決して引き起こしてはなりません、という教皇様の強い意思が伝わってきます。

今年は第一次世界大戦終結100周年、インド独立の父マハトマ・ガンジー暗殺70周年、アフリカ系アメリカ人公民権運動の指導者キング牧師暗殺50周年です。あらためて戦争と平和について考えさせられます。この一世紀の間、国際連盟設立、「国際紛争解決のため、および国策遂行の手段としての戦争の放棄」を誓ったパリ不戦条約締結、再度の大戦とその後の国際連合設立、東西冷戦、共産圏崩壊などがありました。一方、英仏ソ米などの100ほどの植民地が独立を果たしたことは幸いなことです。全体的に見ますと、今日まで世界規模で平和と人権保護が希求されてきたと言えます。

しかし、いまだ深刻な地域紛争、テロ、核兵器の脅威、難民問題、さまざまな形の差別、経済的格差および摩擦などが世界中の人々の平和を脅かしています。昨年7月には国連総会で122カ国と地域の賛成多数により核兵器禁止条約が採択されましたが、核兵器の全廃と根絶を目的として起草されたこの国際条約も、今年7月7日現在バチカン市国を含む11カ国しか批准していないという状況です。核兵器保有は抑止のために必要であるという考え方が根強いからです。しかし核兵器保有は、むしろ軍拡競争の原因となり、ひいては経済

の軍需産業依存、軍需と政治の癒着を来してしまいます。抑止とは、武力で平和を維持しようとする試みですから、敵対心、相互不信感、利権の衝突など対立の要因をいっそう深刻化させ、和解、和平、相互理解の基盤を徐々に崩してしまいます。世界が直面する喫緊の問題（環境、移民・難民、格差や貧困など）は、長年の抑止論と不均衡な経済制度から生まれています。

また、テロ対策や安全保障を理由に言論統制が行われ、インターネット上のサイバー攻撃や差別意識を煽るヘイトスピーチが横行し、スマホ依存症に起因するさまざまな問題も生じています。メディアは、特定の国や民族や宗教等について否定的な固定観念を作るのではなく、正確な情報を公平に提供し、相互理解を促すべきです。

わたしたちは、人間が神に象られて創造された高貴なものであり、全人類が一つの家族であると教えられています。また、人類は和解と相互愛によって連帯を構築する使命を神から与えられていることを知っています。このような信仰と確信に基づいて、愛をもって真実を語り、互いに高め合い、きずなをつくるために情報を役立てるように努めましょう。また世界特に東アジアの情勢を常に注視し、為政者たちが自国の利益の優先ではなく相互の善益と平和を追求するために徹底した対話を忍耐強く続けることができるよう祈りましょう。

2018年7月7日

日本カトリック司教協議会会長
カトリック長崎大司教 高見 三明

今年の平和祈願ミサでは、ミサのはじまりに、福井・石川・富山のそれぞれの地区の社会委員会の皆さんが中心となって取り組んでおられる、平和に関する活動から、それぞれが学んだこと、感じたことを「平和メッセージ」として、紹介していただきます。

また、8月4日～6日まで、名古屋教区の中高生会・青年委員会が合同で、今年も『ヒロシマ巡礼』を行いました。今年は北陸からも8名の中高生・青年たちが参加してくれました。その中から何名かの子どもたちから、巡礼を通して感じたことを簡単に分かち合ってください。

わたしたちの平和を想う願いをひとつにして、今日のミサをご一緒にささげてまいりましょう。

Ten Days for Peace, 2018

A reflection by the president of the Catholic Bishops' Conference of Japan

Always Concerned with the Problem of Peace

At the end of last year, Pope Francis, struck by a picture of a boy standing at a cremation site, gave instructions that copies with his signature and the words "The Fruit of War" should be widely distributed. The photo was taken by a U.S. military cameraman one month after the bombing of Nagasaki, and it shows the misfortune, suffering, emptiness and resentment caused by war. By issuing the card the pope conveyed his strong conviction that we must never resort to war.

This year is the 100th anniversary of the end of the First World War, the 70th anniversary of the assassination of the father of Indian independence Mahatma Gandhi and the 50th anniversary of the assassination of the Reverend Martin Luther King, leader of the African-American civil rights movement. Those anniversaries make us think anew about war and peace.

The past century witnessed the establishment of the League of Nations, the enactment of the 1928 Kellogg-Briand Pact that pledged nations to "condemn recourse to war for the solution of international controversies and renounce it as an instrument of national policy in their relations with one another," the Second World War and the subsequent establishment of the United Nations, the Cold War and the collapse of the Communist bloc. In addition, it is fortunate that about 100 colonies of Britain, France, the Soviet Union, the United States and others have achieved their independence. Overall, it can be said that peace and the protection of human rights have been a universal desire.

Even so, serious regional conflicts, terrorism, the threat of nuclear weapons, refugee problems, various forms of discrimination, economic disparities and friction continue to threaten peoples' peace around the world.

In July of last year, the United Nations General Assembly adopted the Treaty on the Prohibition of Nuclear Weapons with a majority of 122 countries and regions, but as of July 7 of this year, only 11 countries including the Vatican have ratified this international treaty calling for the complete abolition and eradication of nuclear weapons.

The idea that nuclear weapons are necessary for deterrence is strong. However, the possession of nuclear weapons is, rather, responsible for the arms race that inevitably leads to economic dependence on the arms industry and military demand, and shapes politics.

Deterrence is an attempt to maintain peace by means of arms, but by further increasing such factors of conflict as hostility, mutual distrust and conflicts of interests, it gradually breaks down the foundations of reconciliation, peace and mutual understanding. The urgent problems the world faces (environment, immigrants, refugees, wealth disparities and poverty) are born out of the theory of deterrence and its unbalanced economic institutions.

In addition, for the sake of anti-terrorism and security, control of speech has been carried out. Hate speech that encourages cyberattacks on the Internet and discrimination is rampant. Various problems caused by smartphone addiction have also arisen.

Media should not create negative stereotypes about specific countries, ethnic groups, religions and such, but should fairly provide accurate information and encourage mutual understanding.

We are taught that humanity has dignity by virtue of being created in the image of God and that therefore all human beings are a family. In addition, we know that God has given us a mission to build solidarity through reconciliation and mutual love. Based on that conviction, let us try to use information to tell the truth with love, to strengthen each other and create bonds. Let us always keep a close eye on the situation in the world, especially in East Asia, and pray that politicians continue patient dialogue to pursue mutual benefits and peace, rather than their own narrow interests.

July 7, 2018

+Joseph Mitsuaki Takami,
Archbishop of Nagasaki

President

Catholic Bishops' Conference of Japan

～教会の鐘とともに、1分間の黙祷をおこないます～

【入祭の歌】 キリストの平和

作詞・作曲：塩田 泉
編曲：堀切幹夫
英訳：ラルシュ共同体

The musical score is written in 4/4 time with a key signature of two flats (B-flat major/D minor). It consists of a vocal line and an organ accompaniment. The organ part includes a prelude (前奏) and a postlude (後奏). The lyrics are in Japanese and English.

Chorus:
キリストのへいわがわた
ひかり
ちから
いのち
ゆるし
かおり*

Verse 1:
したちのこころのすみずみにまーで ゆき
fire of love be new from the start. And the peace of the One who makes new, Bring you

Verse 2:
わたりますように
joy to the cock-les of your heart.

Organ parts:
前奏 (Prelude)
後奏 (Postlude)

Chords:
Eb Gm
Ab Gm Em Bb Eb Gm
Fm Bb Eb

【あわれみの賛歌】(典203)



【集会祈願】

正義と平和の源である神よ、あなたは争いを憎み、思い上がる者を打ち砕かれます。
世界を悪の力から守り、苦しみと涙をわたしたちから取り除いてください。
すべての人が、あなたの子どもとして平和のうちに生きることができますように。
聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

【第1朗読】ハバククの預言(1・12-2・4)

主よ、あなたは永遠の昔から
わが神、わが聖なる方ではありませんか。
我々は死ぬことはありません。
主よ、あなたは我々を裁くために
彼らを備えられた。
岩なる神よ、あなたは我々を懲らしめるため
彼らを立てられた。
あなたの目は悪を見るにはあまりに清い。
人の労苦に目を留めながら
捨てて置かれることはない。
それなのになぜ、欺く者に目を留めながら
黙っておられるのですか
神に逆らう者が、自分より正しい者を
呑み込んでいるのに。
あなたは人間を海の魚のように
治める者もない、這うもののようにされました。
彼らはすべての人を鉤にかけて釣り上げ
網に入れて引き寄せ、投網を打って集める。
こうして、彼らは喜び躍っています。
それゆえ、彼らはその網にいけにえをささげ
投網に向かって香をたいています。
これを使って、彼らは豊かな分け前を得
食物に潤うからです。
だからといって、彼らは絶えず容赦なく
諸国民を殺すために
剣を抜いてもよいのでしょうか。

わたしは歩哨の部署につき
砦の上に立って見張り
神がわたしに何を語り
わたしの訴えに何と答えられるかを見よう。
主はわたしに答えて、言われた。
「幻を書き記せ。走りながらでも読めるように
板の上にはっきりと記せ。
定められた時のために
もうひとつの幻があるからだ。
それは終わりの時に向かって急ぐ。
人を欺くことはない。
たとえ、遅くなっても、待っておれ。
それは必ず来る、遅れることはない。
見よ、高慢な者を。彼の心は正しくありえない。
しかし、神に従う人は信仰によって生きる。」
(神に感謝)

【答唱詩編】主を仰ぎ見て(典128③⑤)

答唱 主 を あおぎみ て - ひか りを うけよ う 主

答唱 主 を あお - ぎみ て ひか りを - うけよ う 主

が おとずれる ひとの か おはか が や く -

3. 主は貧しい者の叫びを 聞き 悩みの中から すくいだし
5. 主のまなざしは正しい ひとに 耳はかれらの さげびに

3. 主をおそれる者に使いを おく り 支えとなって守って く ださ る
5. 主は 正しい人の声を 聞 き 悩みの中から救って く ださ る

【アレルヤ唱】(典273)

アレルヤ アレルヤ わたしたちの救い主イエス・キリストは死を滅ぼし

福音によって生涯を 照らしてくださった アレルヤ アレルヤ

【福音朗読】マタイによる福音(17:14-20)

〔そのとき、〕ある人がイエスに近寄り、ひざまずいて、言った。「主よ、息子を憐れんでください。てんかんでひどく苦しんでいます。度々火の中や水の中に倒れるのです。お弟子たちのところに連れて来ましたが、治すことができませんでした。」

イエスはお答えになった。「なんと信仰のない、よこしまな時代なのか。いつまでわたしはあなたがたと共にいられようか。いつまで、あなたがたに我慢しなければならぬのか。その子をここに、わたしのところに連れて来なさい。」そして、イエスがお叱りになると、悪霊は出て行き、そのとき子供はいやされた。弟子たちはひそかにイエスのところに来て、「なぜ、わたしたちは悪霊を追い出せなかったのでしょうか」と言った。

イエスは言われた。「信仰が薄いからだ。はっきり言うておく。もし、からし種一粒ほどの信仰があれば、この山に向かって、『ここから、あそこに移れ』と命じても、そのとおりになる。あなたがたにできないことは何もない。」

(キリストに賛美)

【説教】松浦 悟郎司教

【共同祈願】

<招き> 平和への願いと決意を新たにして祈りましょう。

- <意向> ①戦争の犠牲者のために (富山地区)
②民族の対立や紛争のただ中にある人々のために (石川地区)
③子どもたちの平和と未来にののために (福井地区)
④平和を求める祈り (ご一緒に祈りましょう。裏表紙をご参照ください)

<応唱> 主よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

<結び> いつくしみ深い父よ、平和への願いを心ひとつにして祈ります。
わたしたち1人ひとりが、この願いをしっかりと心に刻み、
勇気をもって、平和をあかしする者となることができますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

【奉納】 本日の献金は、7月に大きな被害をもたらした西日本の豪雨災害の被災者支援のために、
カリタスジャパンへ送金いたします。

【奉納の歌】 わたしをお使いください

作詞・作曲：上村幸一郎

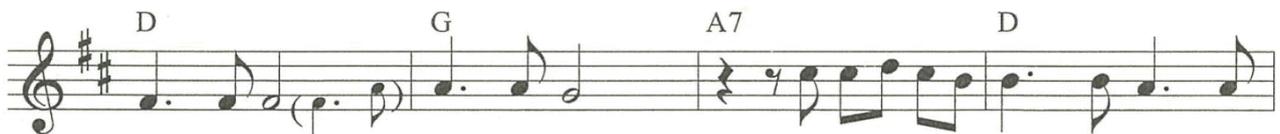


主よ きょういちにち

1. まずしいひとや病
2. ともをもとめ一るち
3. やさしいこばに飢
4. ひとというだけー



んでいるひとびとをたすけるためにわ
いーさなひとびとをおとずれるためにわ
えているひとびとをかたうためにわ
どーんなひとびともあいするためにわ



たしの手ーを
たしのあしーを おのぞみでし たら きよ
たしのこえーを
たしのこころを



うわたしのこのあしを おつかいください
こころを

【奉納祈願】

聖なる父よ、御子イエスは、わたしたちの間から憎しみを取り除くために
とうとい血を流されました。

このささげものを受け入れ、争い悩む世界に和解と平和の恵みをお与えください。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

【奉献文】(ゆるしの奉献文<人類の和解> 叙唱)

父なる神よ、
わたしたちの主イエス・キリストによって、
この世界でなしとげられた愛のみわざに感謝し、
あなたをほめたたえます。

分裂と不和に苦しむ人類に、
いつくしみ深いあなたは
一致への道を備えてくださいました。
聖なる息吹を人々に注ぎ、
敵対する人が対話に向かい、
対立する人が互いに手を取り合い、
平和のうちに歩むよう導いてくださいます。

ゆるす心を与えられたわたしたちは、
今、世界の平和を求める人々とともに、天使の声に合わせ、
あなたの偉大なわざをたたえて歌います。

【感謝の賛歌】(典205)



せいなるかな せいなるかな せいなるかな 万軍のかみなる主



主のえい光 はてん地に満つ 天のいとたかきところにホザンナ



ほむべきかな 主の名によりて来たるもの 天のいとたかきところにホザンナ

【平和の賛歌】(典206)

かみ のこひつじ 世のつみを のぞきたもう主よ われらをあわれみたまえ

かみ のこひつじ 世のつみを のぞきたもう主よ われらをあわれみたまえ

かみ のこひつじ 世のつみを のぞきたもう主よ われらにへい安をあたえたまえ

【拝領の歌】マラナタ(①～③番まで歌います)

1. 主のしよくたくをか こーみ いのちのばんをいた だ き
 2. 主のじゅうじかを おもーい 主のふつかつを た た ー え
 3. 主のよびかけに こ た ー え 主のみことばにした が い
- Gath'ring round the table of the Lord, _____ eat-ing the bread_ once for us brok - en.
 Claim-ing now the cross _ of the Lord, _____ prais-ing Christ's glo-ri-ous re-sur-rec - tion.

すくい のさかすき をのみ 主に あつてわれらはひ と ー つ
 主のみくにを まち のぞみ 主に あつてわれらはい き ー る
 あいのいぶきに み たされ 主に あつてわれらはあ ゆ ー む

Drink - ing the cup ___ of sal - va - tion. We are one in the body of the Lord. _____
 Seek - ing the king - dom of the Mas - ter. Now we live in the life ___ of the Lord. _____

マ ラ ナ タ マ ラ ナ タ 主 の みくにがき ますように
 Ma - ra - na - tha, Ma - ra - na - tha, now may your king - dom com., O Lord.

マ ラ ナ タ マ ラ ナ タ 主 の みくにがき ますように
 Ma - ra - na - tha, Ma - ra - na - tha, now may your king - dom com., O Lord.

【拝領祈願】

全能の神よ、ひとつのパンで養われた わたしたちの心を強めてください。
わたしたちが対立を乗り越え、あなたの愛と正義にしたがって、
平和な世界をつくることができますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

【派遣の祝福】

司 教：全能の神が、御いつくしみによって、わたしたちを祝福し、
救いをもたらす まことの知恵のたまものを与えてくださいますように。
一 同：アーメン。

司 教：神が、信仰の教えによって つねに わたしたちを照らし、
善行をつづける力を与えてくださいますように。
一 同：アーメン。

司 教：神が、わたしたちの歩みを導いて、平和と愛の道を示してくださいますように。
一 同：アーメン。

司 教：全能の神、父と子と聖霊の祝福が + 皆さんの上にありますように。
一 同：アーメン。

司 祭：北陸ブロック・平和祈願ミサを終わります。行きましょう、主の平和のうちに。
一 同：神に感謝。

【閉祭の歌】 あめのきさき(好きな言語で、2回くりかえして歌います)

Immaculate Mother · Inang Sakdal Linis · Louvando Maria · Ave Maria



日本語 あ め の き さ き て ん の も ー ん
う み の ほ し と か が や き ま す

英語 Im - ma - cu - late Moth - er, To you do we _ plead
To ask God, Our Fath - er, For help in our _ need.

タガログ語 I - nang sak - dal li - nis Ka mi ay i - hi - ngi,
Sa Diyos A - ma na - min A wang mi - ni - mit - hi.

ポルトガル語 Lou - van - do Ma - ri - a o po - vo fi - el.
A voz re - pe - ti - a de Sã - o Gabri - el.

ベトナム語 Mẹ Trinh Nguyên MA - RI - A, chúng con ca hát mừng.
Quyền uy Mẹ hiển trị cùng Chúa Ba Ngôi muôn đời.



A - VE, A - VE, A - VE MA - RI - A.



A - VE, A - VE, A - VE MA - RI - A.



平和を求める祈り



神よ、
わたしをあなたの平和の道具としてお使いください。

憎しみのあるところに愛を、
いさかいのあるところにゆるしを、
分裂のあるところに一致を、
疑惑のあるところに信仰を、
誤っているところに真理を、
絶望のあるところに希望を、
闇に光を、
悲しみのあるところに喜びをもたらすものとしてください。

慰められるよりは慰めることを、
理解されるよりは理解することを、
愛されるよりは愛することを、わたしが求めますように。

わたしたちは、与えるから受け、ゆるすからからゆるされ、
自分を捨てて死に、
永遠のいのちをいただくのですから。

FOR PEACE Saint Francis of Assisi

LORD,
make me an instrument of Your peace.
Where there is hatred, let me sow love;
where there is injury, pardon;
where there is doubt, faith;
where there is despair, hope;
where there is darkness, light;
and where there is sadness, joy.

O DIVINE MASTER,
grant that I may not so much
seek to be consoled as to console;
to be understood as to understand;
to be loved as to love;
for it is in giving that we receive;
it is in pardoning that we are pardoned;
and it is in dying that we are born to eternal life.

Oração de São Francisco

Senhor,
Faça de mim um instrumento de vossa Paz.
Onde houver Ódio, que eu leve o Amor,
Onde houver Ofensa, que eu leve o Perdão.
Onde houver Discórdia, que eu leve a União.
Onde houver Dúvida, que eu leve a Fé.
Onde houver Erro, que eu leve a Verdade.
Onde houver Desespero, que eu leve a Esperança.
Onde houver Tristeza, que eu leve a Alegria.
Onde houver Trevas, que eu leve a Luz!

Ó Mestre,
faça que eu procure mais:
consolar, que ser consolado;
compreender, que ser compreendido;
amar, que ser amado.
Pois é dando, que se recebe.
Perdoando, que se é perdoado e
é morrendo, que se vive para a vida eterna!
Amém